

2003年11月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、波数3の偏差分布が卓越した。日本付近から太平洋にかけては広く正偏差となった。太平洋中部からアメリカ合衆国東部にかけて負のPNAパターンが見られた。ユーラシア大陸の寒帯前線ジェット上でも明瞭な波列状の偏差分布（EUパターン）が見られ、日本付近は正偏差となった。北極海ではポーフォート海付近を除いて正偏差だった。

対流活動は、フィリピン付近の東海上からニューギニア島の東側の西部太平洋赤道付近で平年より活発、一方、中部太平洋赤道付近で不活発となった。日付変更線付近の20°N域では、平年ではみられない対流活発域が存在した。インド洋からアジア域では、北半球側を中心としたインド洋の赤道付近、インドネシア西部で平年より活発、一方、ベンガル湾、インドシナ半島、南シナ海、インドネシア東部で不活発となった。

200 hPa 速度ポテンシャルの分布図では、大規模発散の中心はインド洋東部と太平洋西部に分かれて存在した。日本の南東海上では明瞭な収束域が見られた。

SOI（南方振動指数）は-0.2で、今年の7月以降、平年並で推移している。

世界の天候

① シベリアからアラスカ西部の多雨

② 東日本から華北の多雨

上旬に中国・ペキン（北京）で湿った大雪により1300万本以上の街路樹の枝が折れ、被害総額は14億円以上と報じられた。中旬以降、中国・内モンゴル自治区では雪による牧畜業への被害が伝えられた。

③ 西日本から台湾の高温

④ 中国西部から中央アジアの多雨

⑤ ヨーロッパ中部からトルコの少雨

⑥ ヨーロッパ中部の高温

ドイツのプロクセンでは、月平均気温が2.7°Cで、平年より3.8°C高かった。

⑦ アフリカ西部の高温・多雨

⑧ アフリカ南東部の高温

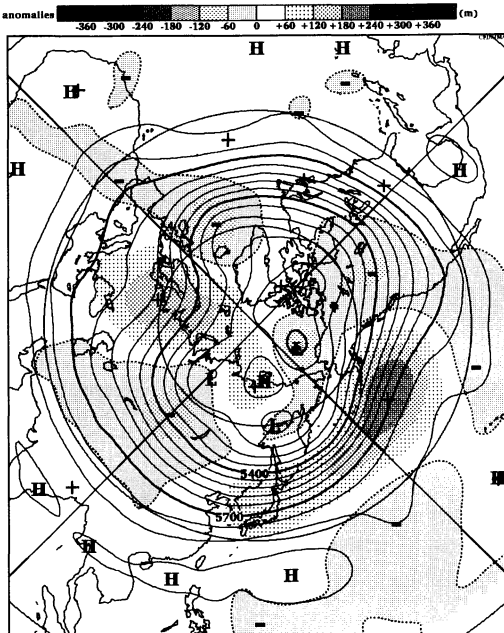
⑨ 中米から南米北部の高温・多雨

⑩ 南米中部の高温・少雨

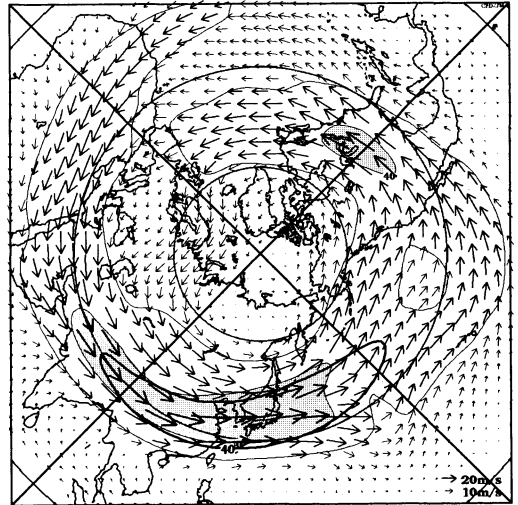
アルゼンチンの Villa Reynolds では、月平均気温が22.7°Cで、平年より3.0°C高かった。

⑪ オーストラリア東部の少雨

（気象庁気候・海洋気象部気候情報課 中村 理恵）

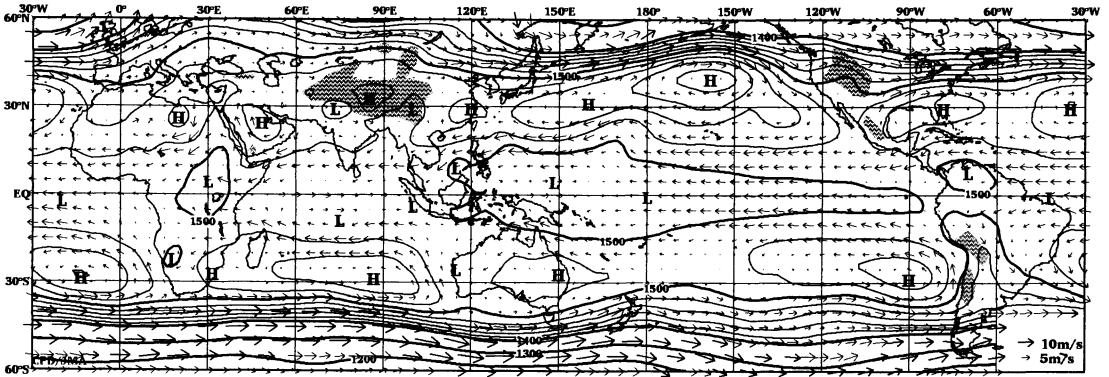


2003年11月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m、偏差パターン間隔は60 m。平年値は1979～1993年のECMWF15年再解析データによる。

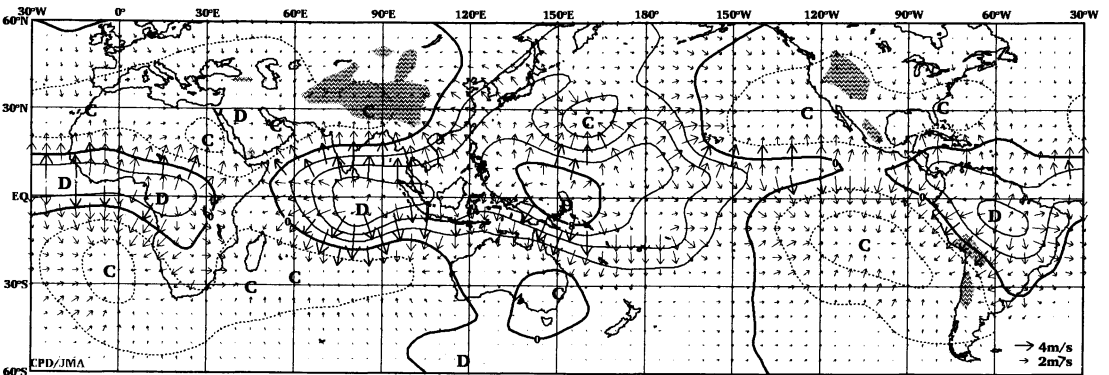


2003年11月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

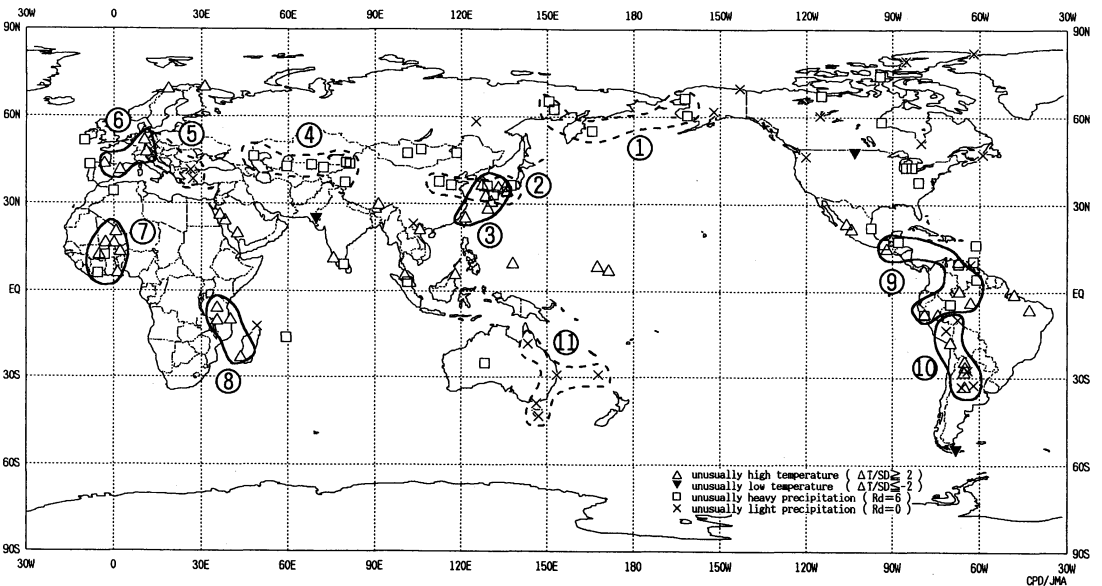
等値線間隔は20 m/s。陰影部は40 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1979～1993年のECMWF15年再解析データによる。



2003年11月の月平均850 hPa 高度及び風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 m までは100 m)



2003年11月の月平均200 hPa 速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



2003年11月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.